

2018年度決算及び剰余金の配当(期末)について

<損益実績(連結)>

	'18年度	上期	下期	'18上期→ '18下期	'17年度	'17年度→ '18年度	(単位:億円) '18年度見 (2/6公表)
売上収益	61,779	29,400	32,379	+ 2,979	57,129	+ 4,650	62,000
事業利益 ※ 1 [ROS]	3,369 [5.5%]	1,580 [5.4%]	1,789 [5.5%]	※4 + 209 [+0.2%]	2,887 [5.1%]	※5 + 482 [+0.4%]	3,300 [5.3%]
単独営業利益	251				64	+ 187	
個別開示項目 ※ 2	▲ 718	▲ 210	▲ 507	- 297			
親会社の所有者に 帰属する当期利益 <1株当たり当期利益> [ROE]	2,511 <281.8> [7.9%]	1,170 <132.6>	1,341 <149.2>	+ 171 <+16.7>	1,808 <204.9> [6.0%]	+ 703 <+76.9> [+1.9%]	2,300 <258.0>
E B I T D A ※ 3	7,455	3,580	3,875	+ 295	6,553	+ 902	7,500
有利子負債 D/Eレシオ	23,692 0.73				21,577 0.69	+ 2,115 +0.04	

(注) 2017年度は、当社が2019年3月期より国際会計基準(IFRS)に基づく連結業績を開示しているため、IFRSに基づく実績値を記載しております。

2018年度上期及び下期(年度-上期)は、当社が2019年3月期より国際会計基準(IFRS)に基づく連結業績を開示しているため、IFRSに基づく試算値を記載しております。

(※1) 事業利益とは、持続的な事業活動の成果を表し、当社グループの業績を継続的に比較・評価することに資する連結経営業績の代表的指標であり、売上収益から売上原価、販売費及び一般管理費、並びにその他費用を控除し、持分法による投資利益及びその他収益を加えたものであります。その他収益及びその他費用は、受取配当金、為替差損益、固定資産除却損等から構成されております。

(※2) 当社グループの営業活動と関連が低く金額の影響が大きい非定期的項目 (※3) 事業利益 + 減価償却費

<諸元>

(1) 当社

連結粗鋼生産量(万t)	4,784	2,365	2,419	+ 54	4,702	+ 82	4,820程度
単独粗鋼生産量(万t) *1	4,100	2,050	2,050	+ 0	4,067	+ 33	4,130程度
鋼材出荷量(万t) *1	3,797	1,856	1,941	+ 84	3,779	+ 18	3,810程度
鋼材価格(千円/t) *1	89.9	88.7	91.2	+ 2.5	84.7	+ 5.3	89程度
為替(円/\$)	111	109	112	3円安	111	0円高	111程度

*1 2017年度は日鉄住金鋼鉄和歌山を含む

(2) 全国

粗鋼生産量(万t)	10,289	5,222	5,067	- 155	10,484	- 195	10,423程度
鋼材消費(万t) *2 (うち 製造業) <製造業比率>	6,290 (4,069) <64.7%>	3,088 (1,993) <64.5%>	3,202 (2,077) <64.8%>	+ 114 (+ 84) <+ 0.3%>	6,289 (4,040) <64.2%>	+ 2 (+ 29) <+ 0.4%>	6,320 (4,071) <64.4%>
普通鋼材消費(万t)	4,967	2,431	2,536	+ 105	4,974	- 7	4,996
建設	2,141	1,056	1,085	+ 29	2,167	- 26	2,167
製造業	2,826	1,375	1,451	+ 76	2,808	+ 19	2,829
特殊鋼材消費(万t)	1,323	657	666	+ 9	1,314	+ 9	1,324
国内メーカー在庫(万t)	591 *3	623	591	- 32	583	+ 8	
薄板三品在庫(万t)	446 *3	440	446	+ 7	421	+ 25	

*2 当社推定値 *3 3月末(速報)

<セグメント情報>

	2018年度	上期	下期	'18上期→ '18下期	'17年度	'17年度→ '18年度	(単位:億円) '18年度見 (2/6公表)
売上収益	61,779	29,400	32,379	+ 2,979	57,129	+ 4,650	62,000
製鉄	54,545	25,900	28,645	+ 2,745	50,172	+ 4,373	55,000
エンジニアリング	3,567	1,610	1,957	+ 347	2,942	+ 625	3,600
ケミカル & マテリアル	2,470	1,260	1,210	- 50	2,378	+ 92	2,500
システムソリューション	2,675	1,250	1,425	+ 175	2,442	+ 233	2,580
調整額 *4	▲ 1,478	▲ 620	▲ 858	- 238	▲ 805	- 673	▲ 1,680
事業利益	3,369	1,580	1,789	+ 209	2,887	+ 482	3,300
製鉄	2,746	1,320	1,426	+ 106	2,457	+ 289	2,800
エンジニアリング	94	30	64	+ 34	91	+ 3	85
ケミカル & マテリアル	250	130	120	- 10	173	+ 77	220
システムソリューション	265	115	150	+ 35	232	+ 33	240
調整額 *4	11	▲ 15	26	+ 41	▲ 68	+ 79	▲ 45

*4 IFRS調整を含む。

※2 個別開示項目内訳

(単位:億円)

	2018年度	上期	下期	備考
個別開示項目 合計	▲ 718	▲ 210	▲ 507	
災害損失	▲ 223	▲ 210	▲ 13	台風・豪雨関連
事業再編損	▲ 494	-	▲ 494	減損損失・事業撤退損・設備休止関連損失他

(※4、5) 連結事業利益差異の内訳

2018上期

2017年度

(単位:億円)

連結事業利益 差異	+210	+480	+70
1. 製鉄事業	+110	+290	-50
① 生産出荷	+30	+70	-90
② 販売価格・構成	+170	+1,790	~
③ 原料価格(キャリオーバー含む)	-260	-1,100	~
④ コスト改善	~	+440	~
⑤ 在庫評価差	-170	-240	+30
⑥ グループ会社	+50	-100	+80
⑦ 為替影響(ストック、フロー)	-90	+90	~
⑧ 豪雨、台風、地震影響	+190	-350	~
⑨ その他	+190	-310	-70
2. 鉄以外セグメント	+60	+110	+60
3. 調整額	+40	+80	+60

【剰余金の配当(期末)について】

当期末の剰余金の配当については、既公表の配当方針に従い、第3四半期決算時(2019年2月6日)に公表致しましたとおり、1株につき40円(年間配当金としては、1株につき80円、連結配当性向28.4%)として定時株主総会に提案させていただき予定ですが、

【2019年度決算見通し】

2019年度の業績見通しについては、再生産可能な適正価格の実現に向けた継続的な取組みに加え、主原料価格の上昇や市況原料・資材費・物流費等のコストアップ影響も踏まえた鋼材価格の改善について、各需要家と交渉中であること等から、現時点では当社として合理的な算定・予想を行うことができません。

従いまして、業績予想については未定とし、合理的な算定が可能となった時点で速やかに開示致します。

2018年度損益状況

連結利益の大宗をグループ会社の収益に依拠する状況が3年にわたって継続

2018年度連結事業利益 3,369億円

単独営業損益 251億円
うち在庫評価差 390億円
在庫評価差除き ▲140億円

Cf. 単独営業損益推移 (億円)

	FY13	FY14	FY15	FY16	FY17	FY18
単独営業利益	1,869	2,286	562	▲291	64	251
在庫評価差	160	▲150	▲640	▲390	630	390
在庫評価差除き	1,710	2,440	1,200	100	▲570	▲140

鉄グループ会社 2,313億円

海外事業

国内
加工
会社

日鉄
電炉

機能分担
会社等

鉄以外セグメント 611億円

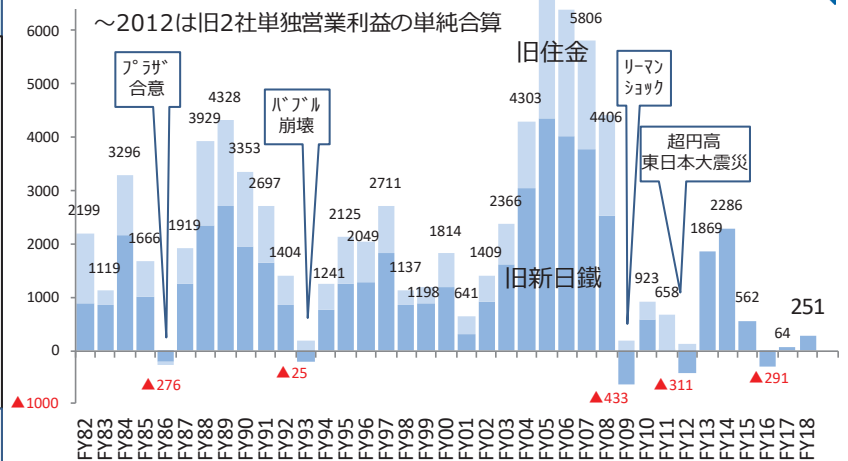
エンジニア
94

ケミカル&マテリアル
250

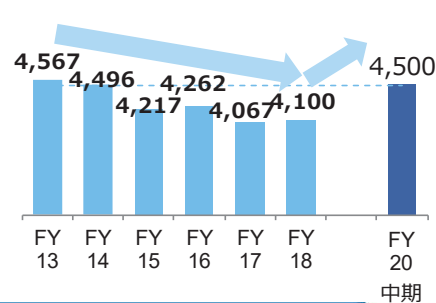
システムソリューション
265

鉄単独営業外・連結消去等 194億円

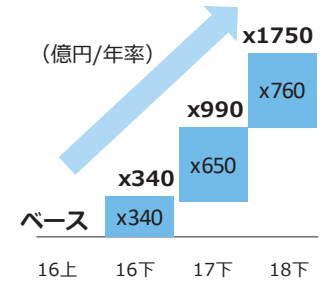
Cf. 単独営業利益推移



Cf. 粗鋼生産量 (万 t/年)



Cf. 市況原料、
資材費・物流費等コストプッシュ



NIPPON STEEL

© 2019 NIPPON STEEL CORPORATION All Rights Reserved.

収益力回復・財務体質維持に向けた取組み

「足元から着手する当面の施策」「今後成案化次第実行に移す施策」に分けて取組みを加速

2020中計課題への対策の着実な実行

「つくる力」と「売る力」の再構築

「つくる力」：ラインマネジメントの徹底による安定生産の実現 ⇒ 生産出荷規模の回復・拡大

「売る力」：再生産可能な適正価格の実現

主原料、市況原料、資材費・物流費等のコストプッシュの反映

資産圧縮

2,000～3,000億円

+1,000
～2,000
億円
積み増し

1,000
億円

1,000
億円

中期計画

FY2018
実績

FY2018～2020
計画

Cf. FY2012～2017累計
7,800億円

2020中計キャッシュマネジメントの補強

資産圧縮積み増し +1,000～2,000億円

長期の更新計画に基づいた効率的設備投資の実現

収益基盤の強化に向けた抜本的対策の推進

最適な生産体制の追求

競争力のある設備の稼働率向上、高度IT活用等による生産性向上 ⇒ 当社の生産体制の短所を克服・長所を進化品種・事業ごとの方向性を見定め

➤ 今回、鹿島UO鋼管ラインの休止 (2019年10月末予定) を決定

需要環境変化を踏まえ、2つあるUOラインのうち鹿島のUOラインを休止・君津への集約を決定
ハイエンド市場をターゲットとしたUO事業の体質強化

NIPPON STEEL

© 2019 NIPPON STEEL CORPORATION All Rights Reserved.

日本製鉄株式会社

コード番号 5401 上場取引所 東京、名古屋、札幌、福岡

問合せ先 責任者役職名 広報センター所長

氏 名 大西 史哲

TEL (03)6867-2130

<2019年3月期 補足情報>

[全国]

1. 粗鋼生産量

単位:万トン

	前期			当期			年度
	第1四半期	第2四半期	上期	第3四半期	第4四半期	下期	
2017年度	2,609	2,594	5,204	2,639	2,641	5,280	10,484
2018年度	2,656	2,565	5,222	2,570	2,497	5,067	10,289

2. 在庫推移

	国内メーカー問屋在庫	(在庫率)	薄板三品：熱延＋冷延＋表面処理	ときわ会H形鋼
	万トン	%	万トン	万トン
2017. 3 末	537	(124.8)	380	20.1
2017. 4 末	554	(151.7)	388	19.7
2017. 5 末	578	(155.9)	409	19.7
2017. 6 末	556	(139.9)	401	19.3
2017. 7 末	542	(142.0)	395	18.9
2017. 8 末	566	(158.4)	414	17.9
2017. 9 末	570	(145.4)	416	18.2
2017.10 末	583	(150.1)	411	17.6
2017.11 末	566	(139.2)	400	17.3
2017.12 末	567	(149.2)	404	17.5
2018. 1 末	586	(157.5)	415	18.5
2018. 2 末	581	(154.4)	412	19.6
2018. 3 末	583	(140.8)	421	20.0
2018. 4 末	579	(145.8)	415	19.6
2018. 5 末	587	(150.1)	434	20.0
2018. 6 末	592	(149.3)	441	20.7
2018. 7 末	568	(143.1)	420	20.8
2018. 8 末	601	(170.5)	439	20.4
2018. 9 末	623	(176.6)	440	19.8
2018.10 末	587	(132.0)	426	18.4
2018.11 末	559	(133.8)	414	18.4
2018.12 末	573	(151.5)	417	18.7
2019. 1 末	598	(154.4)	440	19.5
2019. 2 末	593	(152.5)	441	20.8
2019. 3 末*	591	(139.5)	446	21.9

*2019.3 末は速報値

〔当社〕

3. 出銑量（当社＋北海製鉄＋日鉄住金鋼鉄和歌山（※1））

単位：万トン

	第1四半期		第2四半期		上期	第3四半期		第4四半期		下期	年度
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期							
2017年度	992	1,013	2,005	1,008	1,049	2,057	4,061				
2018年度	1,025	1,024	2,049	1,024	1,013	2,037	4,086				

4. 粗鋼生産量

【連結ベース】 当社＋連結子会社

単位：万トン

	第1四半期		第2四半期		上期	第3四半期		第4四半期		下期	年度
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期							
2017年度	1,149	1,174	2,323	1,172	1,207	2,379	4,702				
2018年度	1,189	1,176	2,365	1,213	1,206	2,419	4,784				

【参考：単独ベース】 当社＋日鉄住金鋼鉄和歌山（※1）

単位：万トン

	第1四半期		第2四半期		上期	第3四半期		第4四半期		下期	年度
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期							
2017年度	990	1,019	2,009	1,008	1,050	2,058	4,067				
2018年度	1,029	1,021	2,050	1,029	1,022	2,050	4,100				

5. 鋼材出荷量（当社＋日鉄住金鋼鉄和歌山（※1））

単位：万トン

	第1四半期		第2四半期		上期	第3四半期		第4四半期		下期	年度
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期							
2017年度	934	939	1,872	939	967	1,907	3,779				
2018年度	957	899	1,856	992	948	1,941	3,797				

6. 鋼材平均価格（当社＋日鉄住金鋼鉄和歌山（※1））

単位：千円/トン

	第1四半期		第2四半期		上期	第3四半期		第4四半期		下期	年度
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期							
2017年度	84.0	83.0	83.5	86.0	85.7	85.8	84.7				
2018年度	87.2	90.2	88.7	91.5	90.9	91.2	89.9				

7. 鋼材輸出比率（金額ベース）（当社＋日鉄住金鋼鉄和歌山（※1））

単位：%

	第1四半期		第2四半期		上期	第3四半期		第4四半期		下期	年度
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期							
2017年度	42	41	42	41	41	41	41				
2018年度	41	41	41	40	37	39	40				

8. 為替レート

単位：円/\$

	第1四半期		第2四半期		上期	第3四半期		第4四半期		下期	年度
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期							
2017年度	111	111	111	113	110	111	111				
2018年度	108	111	109	113	110	112	111				

9. 設備投資額（工事ベース）及び減価償却費

【連結ベース】

単位:億円

	設備投資額	減価償却費
2017年度	4,119	3,407
2018年度 ^(※2)	4,408	4,086

(※1) 日鉄住金鋼鉄和歌山は2018年4月1日をもって当社に吸収合併されている。

(※2) IFRS 移行影響等含む。

以 上